日本文化を教えることの大切さ
～礼儀作法や風習は大人が伝えるもの

米日教育交流協議会（ＵＪＥＥＣ）・代表　丹羽筆人

日本語・日本文化習得に効果あり

５年目を迎えた日本語・日本文化体験学習プログラム「サマーキャンプ in ぎふ」は、今年の日本を襲った記録的な大雨や猛暑の被害を受けることもなく無事終了しました。年２回行っている2週間のプログラムに参加した海外生活の長い子どもたちは、この５年間で延べ80人以上となりました。全米各地からの参加者に加え、カナダ、イギリスなどの英語圏、そして日本、中国、韓国にて英語で学習しているインターナショナルスクール在籍者の参加により、在住国に広がりも出ています。また、小学生、中学生に加え高校生の参加者も現れ、年齢層も幅広くなっています。

毎回終了後には多くの参加者から楽しかったという感想が寄せられますし、過年度参加者の継続参加も増加していることは喜ばしいことです。ただし、楽しかっただけでなく、日本語や日本文化の習得にも効果があり、参加者が日本語を積極的に使うようになったことや日本的な礼儀作法が身についたということ、さらに親元を離れ精神的に成長したことなどが、保護者の声として続々と届いています。それは、正しい日本語の使い方はもちろん、挨拶の仕方や話の聞き方、靴の脱ぎ方などのマナーも徹底して指導からだと思います。

挨拶のできない子どもに繰り返し指導

ところで、最近、海外で生まれ育った子どものみでなく、海外生活がそんなに長くない子どもにも日本的な礼儀作法に欠ける言動が見られます。例えば、大きな声で挨拶をすることや人の話をきちんと聞くことなどのできない子ども、言葉遣いの荒い子どもなどを見かけます。

「おはよう。」、「こんにちは。」、「さようなら。」、「いただきます。」、「ごちそうさま。」、そして「ありがとう。」のような基本的な挨拶ができないのです。挨拶のできない子どもに対しては、周りの大人が率先して挨拶することが大切です。自分から挨拶のできない子どもでも、挨拶されれば返すことはできます。それでもなかなか挨拶のできない子どもには、何度もその子の前で挨拶することによってできるようになってきます。日本の学校や海外の日本人学校・補習校ではそのような指導を行っています。また、学校やキャンプというような集団生活の場合は、周りの仲間がきちんと挨拶することによって、みんなが挨拶ができるようになってきます。子どもにとっては子どもからの影響力が強いですし、これが集団生活のよい点です。

大人と話す時の言動に要注意

このように挨拶のできない子どもの他、大人の話を聞くときの態度や大人との会話が少々気になる子どももいます。例えば、話を聞いている時に話す人の顔を見ないとか、椅子に浅く腰掛け、ふんぞり返って足を投げ出すようにして座ったり、椅子がない場合だと正座できないどころか、じっとしていられない子どもも目立ちます。そして、ついには寝転んでしまうということまであります。これは説明が難しくて分からないとか、つまらないということの意思表示だとは思いますが、話

教頭先生に「おはようございます」と元気に挨拶

禅寺で食事の作法を学ぶ－ご飯をいただく時に合掌

地元のおじいさんの話を聞く－話す人の顔を見るのが大切

をする人にとっては気分のよいものではありません。また、問いかけに対して返事をしない子どもも目立ちます。「分かりましたか。」という問いに対して「はい。」、「質問はありますか。」という問いに対して「いいえ、ありません。」などと気持ちよく返事をすることは大切なことです。

このほか、海外には大人に対して日本語で「あなた」という言い方をする子どももいます。英語のYouをそのまま日本語にして使うのではなく、相手によって言い方を変えなければならないことは教えないと分からないことです。そういえば、米国に来たばかりのころ、米国人の子どもに「Can you play with me?」と言われたときにはむっとしましたが、決して誤った表現ではないですよね。しかし、慣れないと感じがよいものではありませんね。

また、親以外の目上の大人に対しては、「おはようございます。」、「ありがとうございます。」というような丁寧な言葉遣いで挨拶するということも大人が教えるべきことです。

チームワークが大切な日本社会

日本の社会は米国とは異なり、年齢差のある縦の関係を大切にしています。年少者は年長者を敬い、年長者は年少者の面倒を見るという文化(風習)があります。ただし、最近は日本でも年齢差のある子どもが一緒に行動することは少なくなっています。「サマーキャンプ in ぎふ」では幅広い年齢層の子どもが2週間寝食をともにするので、縦の関係を肌で感じることができます。また、補習校も年齢差の大きい子どもたちが同じ敷地内で学ぶ環境であることが多いため、お互いが接触する機会もありますし、運動会のような学校行事では、年長者が年少者のお世話をしたり、年少者が年長者の演技を見て憧れを抱いたりするという縦の関係を感じることのできる場となっています。

また、日本の社会ではチームワークを大切にしています。学校でも企業でもみんなで協力して作り上げていくことが重要です。役割分担を決めて、それを責任を持って実行すること、周りの様子を見ながらお互いに助け合うことを身につけないとなりません。「サマーキャンプ in ぎふ」では、食事の後片付けや部屋の掃除などの活動を通じて、補習校でも学校行事や学級活動を通じて、チームワークの大切さを教えています。

話を聞くときの模範的な態度ー畳の部屋では正座

年少者を思いやる態度ー流しそうめんの席順は下の子が上

海外に在住する日本の大人の使命

ここまで述べてきたことは、在外邦人子女や日系人子女が大人になるまでに身につけておいた方がよいことばかりです。将来日本で生活することになった場合だけでなく、海外にいても日系企業に勤める場合には必要な資質です。日系企業以外に勤務したとしても、日本人や日本と全く縁のない生活をすることはないと思いますし、日本人の血を引いている以上、日本的な礼儀作法や日本の文化・風習を身につけていて当然と思われるでしょう。このようなことを大人になっても知らないようでは恥ずかしいことですし、大人になってから身につけるのはとても大変です。

海外生活の中で自然に身につけた英語力や欧米文化は、これからの国際社会で生きていくためにはとても強力な武器になると思います。それに加えて、日本語や日本文化をしっかりと身につければ、より活躍の場が広がることは言うまでもありません。

海外の子どもたちにとって習得するのが難しい日本語・日本文化をきちんと教えていくことは、その子どもたちに関わる大人に課せられた使命ではないでしょうか。

執筆者/米日教育交流協議会(UJEEC)・代表 丹羽筆人 (Fudehito Niwa, Director)

河合塾で十数年間にわたり大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌の編集に携わり、「栄冠めざしてー海外帰国生入試編」創刊号の編集も手がけた。また、大学受験科クラス担任として進学指導を行なう一方、高校での進学講演を通じて大学入試情報を提供。また、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際的企画も担当。米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州で補習校・学習塾講師を歴任。現在もデトロイト補習授業校講師を務める。2006年に「米日教育交流協議会(UJEEC)」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践中。また、日本語教育や帰国生入試相談にも応じている。また、「河合塾海外帰国生コース北米事務所」のアドバイザーとして帰国生大学入試情報の提供や受験相談を行っている。

◆米日教育交流協議会(UJEEC)

Phone:1-248-346-3818　Website:www.ujeec.org